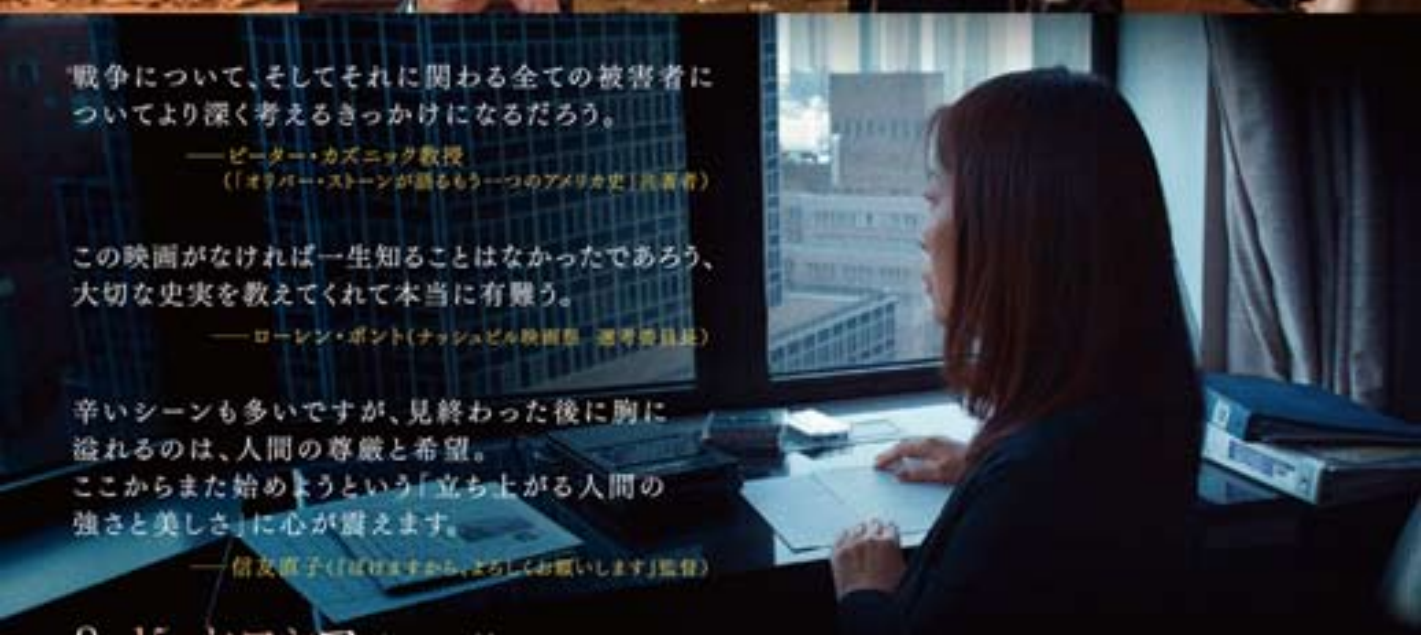
何かを失くしたときは、何かを得るときだ。

1945年8月6日、8時15分。世界で初めて広島に投下された原子爆弾を、爆心地より1.2kmの至近距離で被爆した父・美甘進示（みかもしんじ）の壮絶な体験を、娘の章子が丹念に聞き取り、2013年に英語で書籍化。2014年に日本語版で執筆・出版された書籍：「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」を原作として、2020年に映画化した作品。

地獄の様な状況にあっても、生きることを諦めなかった父の想いと、父から娘へと受け継がれた、世界の平和を叶えるための大切なメッセージは、アメリカの心を大きく揺さぶり、ナッシュビル映画祭では観客賞を受賞という歴史的快挙を達成。先行公開となった広島でもロングラン上映、大反響を呼んだ作品が、2021年夏、ついに全国ロードショーとなる！



"戦争について、そしてそれに関わる全ての被害者についてより深く考えるきっかけになるだろう。

——ピーター・カズニック教授
（「オリバー・ストーンが語るもう一つのアメリカ史」共著者）

この映画がなければ一生知ることはなかったであろう、大切な史実を教えてくれて本当に有難う。

——ローレン・ボント（ナッシュビル映画祭　選考委員長）

辛いシーンも多いですが、見終わった後に胸に溢れるのは、人間の尊厳と希望。
ここからまた始めようという「立ち上がる人間の強さと美しさ」に心が震えます。

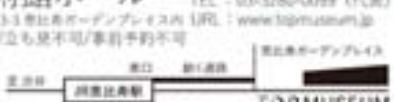
——信友直子（『ばけますから、よろしくお願いします』監督）

8時15分ヒロシマ 父から娘へ

監督：J.S.ヘッフェルフィンガー　エグゼクティブ・プロデューサー／脚色：美甘章子　プロデューサー：ルル・レ・フェイン　テーマ音楽「アヴェ・マリア」作曲：瀬川俊夫
田中壮太郎　ジョナサン・タンガモ　ルディ・大野・トイル　美甘進示　美甘章子　ムーリ・チョウ　松坂慶昌　ルル・レ・フェイン　アーサー・アクレス
原作本：「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」美甘章子著（講談社インターナショナル）　推薦：広島市長　協力：広島フィルムコミッション
2020年／アメリカ／51分／シネスコ／5.1ch／原題：[8:15]　配給：東京都写真美術館

815hiroshima-movie.com
815hiroshimamovie

7/11（金）	13:20	18:00	舞台上映後舞台挨拶
7/12（土）13（日）	13:20		上映後舞台挨拶
7/15（木）16（金）	13:10		
7/17（土）	13:10	17:00	18:30
7/18（金）23（土）24（日）		15:30	休映　14（水）
7/19（土）20（日）21（月）	10:30	15:30	22（火）

公式HP・予告編　English Audiobook

東京都写真美術館ホール
TEL：03-3280-0099（代表）
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 URL：www.topmuseum.jp
単全席指定/各回定員入替制/立ち見不可/事前予約不可